

# 統計学基に適切な介護

知立のホーム 独自で利用者データ管理



データで体調を管理するソフトを開発した深谷理事長=知立市山屋敷町で

知立市山屋敷町の有料老人ホーム「ワズヴィラ池鰐」が、統計に基づいた予防介護に取り組んでいる。これまで“勘”や“感覚”に頼りがちだった利用者の体調管理を、蓄積したデータから分析することで、適切に指導する取り組みだ。

(土屋晴康)

毎日測定する血圧や体温などのバイタル値、水分摂取量や排せつの量などをパソコンに記録し続けることで、健康な状態でのデータを蓄積。多くの介護施設でバイタル値の測定は行われて

者への傾向について把握し、改善に向けて介護者が助言する。

多くのバイタル値、水分摂取量や排せつの量なれば、改善に向けた上で、数値に変動があることと、健康な状態とのデータを蓄積。

温などのバイタル値、水た上で、数値に変動があることと、健康な状態とのデータを蓄積。

多くのバイタル値、水分摂取量や排せつの量なれば、改善に向けた上で、数値に変動があることと、健康な状態とのデータを蓄積。

いるが、日々測定する人も異なり、数字の羅列だけでは、利用者の健康状態を読み取りにくい。施設では蓄積したデータを基に、脳卒中のリスクに關わる「脈圧と血圧の相関図」などをグラフ、表など目に見える形で表示。変化があれば、介護者や家族に水分摂取を促したり食事の量を指導したりと、期待する家族は増えており、ソフトの導入で「医療の専門知識がなくておらず、発病前に利用者に注意喚起できるようになつた」。深谷理事長は「この健康管理ソフトを開発したのは、施設を運営が必要。利用者の日常生活を知る介護現場だからこそ、できる予防があるは

で、工作機械メーカーの技術者として約三十五年間、設計などに携わった。製造業の世界では、品質管理や販売戦略において、統計学上の分析は当たり前。ただ、人を相手に体調をデータで管理することに、「当初は戸惑いもあった」と振り返る。

護の世界に飛び込むまで、工作機械メーカーの技術者として約三十五年間、設計などに携わった。製造業の世界では、品質管理や販売戦略において、統計学上の分析は当たり前。ただ、人を相手に体調をデータで管理することに、「当初は戸惑いもあった」と振り返る。